



里見八犬傳

卷二

709
2



門 逸 18
第 709
卷 2



明治三六年
十月九日
購求

商 總里見八犬傳 卷之二

東都 曲亭主人編次

第三回

景連信時暗小義實を阻む
氏元負行三又館山小後小
くておんさいまらうのふけつと、まふ也
却説安西三郎大夫景連の近習のむろ告る次や、結城の落人里見義実主
後三人水行より、あふ本れる緯の越たる六猜する。後難をうかこるれ
速ゆ六回答せぬ麻呂信時をえうりく。如此このふるん何うと思ひぬか
と回と信時、あまき里見の名ある源氏もれども、あま縁も好むる。二の
持氏なるれ、結城氏朝の荷擔れ、籠城三年、及ぶりのう、京鎌倉を敵小
受て八命成豫くるれ、めと、あふたりのるる小落城の日小及、親の移る
ともえうらま、阿谷とと逃かくと、あいらと、うへ流浪入ると、より由るれ白

八犬傳卷之二

山崎堂藏

矢面^{やま}のま^ま一日^{いちにち}もあり。槍^{やり}下^{した}と潜脱^{ひそかに}の^のく^く通^{とほ}とい^いの^のま^まと^とま^まら^られ^れと^と海^{うみ}より^{より}外^{あは}小^こ物^{もの}も
 る^るた^たつ^つわ^わの^の却^{かえ}波^{なみ}風^{かぜ}騒^{さわ}を^を良^よ賊^{ぞく}を^を異^いを^を樂^{たの}む^むと^と笑^{わら}い^いの^の似^にぬ^ぬめ^めの^のま^まと^とむ^むと^とむ^むと^とむ^む
 主^{ぬし}の後^{のち}方^{かた}ある^る老^{らう}堂^{どう}也^やを^をと^とや^やり。治^ちると^とた^たぬ^ぬも^も乱^{らん}を^を心^{こころ}れ^れど^ど小^こ敵^{てき}と^とる^ると^と侮^{あは}れ^れ
 すと^と兵^{へい}書^{しょ}本^{ほん}文^{ぶん}あり^りと^とい^いふ^ふと^とも^も二^{ふた}人^{にん}は^は過^{あや}ぎ^ぎる^る主^{ぬし}後^{のち}へ^へ鐵^{てつ}の^のく^くあ^あの^の美^み美^み小^こ弓^{きう}弦^{げん}の^の
 索^{さく}新^{しん}異^いる^る響^{きやう}應^{おう}ある^るの^の刀^{たう}祢^ねの^の子^こ料^{りやう}理^りを^を亦^{また}德^{とく}賞^{しやう}味^みつ^つら^らつ^つら^らん^ん秀^{しゆ}業^{ぎやう}
 内^{うち}と^とい^いそ^そが^がく^く送^{おく}ら^らる^るや^や主^{ぬし}後^{のち}へ^へも^もその^{その}席^{せき}に^に座^ざす^する^る士^し士^しの^の弓^{きう}を^を伏^{おせ}
 槍^{やり}と^と引^ひ攪^かく^く東^{とう}西^{せい}する^る。惟^{ただ}幕^{まくら}の内^{うち}は^はく^くく^くけ^けり。當^{あた}り^り里^り見^み義^ぎ実^{じつ}ハ^ハ景^{けい}連^{れん}信^{しん}
 時^{とき}を^を遙^{とほ}ふ^ふえ^えく^く此^{こゝ}も^も媚^{めい}ぶ^ぶか^か色^{いろ}る^る。賓^{ひん}座^ざも^も名^なを^を磨^{みが}る^る扇^{せん}を^を右^{みぎ}ひ^ひ置^お
 結^{むす}城^{じやう}の^の敗^{さい}将^{しやう}里^り見^み又^{また}大^{だい}郎^{らう}義^ぎ実^{じつ}亡^な夫^ふ活^{かつ}然^{ぜん}申^{まを}季^き其^{その}舌^{した}を^を送^{おく}と^とよ^よて^て辛^{から}く^く敵^{てき}
 軍^{ぐん}の^の用^{もち}を^を脱^{だつ}を^を漂^{ひら}泊^{ぱく}し^しと^とふ^ふ来^きれ^れり。か^か色^{いろ}が^が黄^{わう}の^の台^{たい}屋^{いつ}も^もと^とる^る死^し令^{しやう}乃^{なり}
 乃^{なり}と^と寓^いす^す華^か洛^{らく}へ^へと^と入^いる^る謙^{けん}倉^{そう}る^る管^{くわん}領^{りやう}も^も後^{のち}に^にて^て安^{あん}國^{こく}の^の民^{たみ}と^とら^らる^るべ

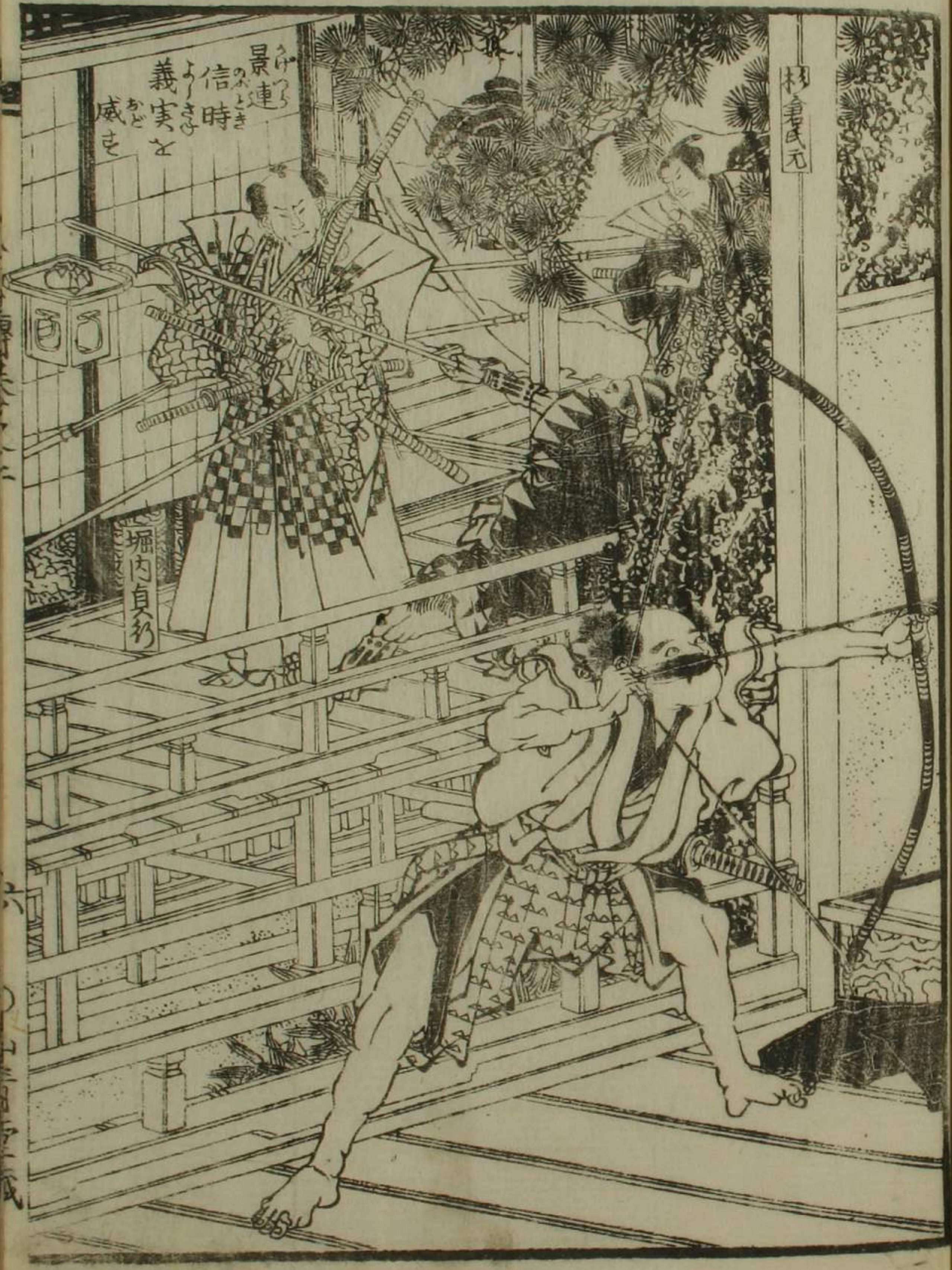
て^てよ^よの^の死^し車^{くるま}る^るべ^べと^とい^いひ^ひし^しの^のみ^みゆ^ゆは^はく^くく^く異^いる^る巷^{ちやう}街^{がい}義^ぎ兵^{へい}は^はて^て
 一^{いち}臂^{べい}の^のち^ちち^ちち^ちと^と竭^{げつ}け^ける^るも^もあ^あら^らん^んと^とく^く。あ^あら^らん^んも^も虎^こ威^いを^を犯^{おと}す^す。見^{けん}え^えを^を
 と^とい^いひ^ひく^く敗^{さい}軍^{ぐん}の^の将^{しやう}と^とく^く嫌^{きら}れ^れど^ど對^{たい}面^{めん}と^と許^{ゆる}し^しぬ^ぬハ^ハ由^{よし}月^{げつ}中^{ちゆう}武^ぶ盡^{じん}は^は足^あま^まり^り。
 傳^{でん}へ^へく^く亡^なく^く愛^{あい}臣^{しん}板^{いた}倉^{そう}木^{ぼく}曾^{そう}母^ぼ氏^し元^{げん}堀^け内^{うち}入^いり^り負^おけ^ける^るん^んあ^あら^らん^んと^とあ^あら^らん^ん
 へ^へと^と怒^{いか}怒^{いか}名^な告^こつ^つ。徐^{じゆ}す^すふ^ふえ^えり^りあ^あら^らん^ん氏^し元^{げん}負^おけ^ける^る共^{とも}に^に腕^{うで}を^を隠^{かく}す^す隠^{かく}す^す低^ひ
 く^くけ^ける^る。あ^あら^らん^んも^も景^{けい}連^{れん}ハ^ハあ^あら^らん^んの^の義^ぎ実^{じつ}の^の年^{ねん}の^のこ^こを^をた^たぬ^ぬ悔^{あは}れ^れと^とら^らん^んる^る
 の^の禮^{らい}と^と返^{かへ}さ^さす^す。信^{しん}時^じの^のあ^あら^らん^ん狐^こを^をて^て眼^{まなこ}を^を睜^あけ^け。声^{こゑ}を^をふ^ふり^りた^たぬ^ぬ麻^あ呂^{りよ}小^こ五^ご郎^{らう}
 る^る。聊^{ちやう}別^{べつ}後^ごあ^あら^らん^んの^のけ^けの^のく^く。け^けの^の平^{へい}館^{かん}より^{より}来^きり^りか^かひ^ひよ^よの^の席^{せき}上^{じやう}に^に連^{れん}ぬ^ぬこ^この^のこ^こを^を
 口^{くち}さ^さす^す。小^こ冠^{かん}者^{しや}あ^あら^らん^んの^のこ^こを^を安^{あん}房^{ぼう}ハ^ハ小^こ園^{えん}の^のま^まま^まも^も東^{とう}南^{なん}の^の盡^{じん}知^ちぬ^ぬ。三^{さん}面^{めん}を^をく^く
 海^{うみ}の^のま^まま^ま室^{しつ}町^{ちやう}殿^{でん}の^のま^まま^ま受^うけ^けた^たと^と兩^{りやう}管^{くわん}領^{りやう}も^も後^{のち}に^にど^ど鄰^{りん}國^{こく}の^の強^{きやう}敵^{てき}も^も敢^あて^て培^かを^を
 犯^おす^すと^とい^いは^はれ^れば^ばと^とく^く。こ^この^のま^まま^まま^まま^ま安^{あん}西^{せい}ぬ^ぬ。後^{のち}に^に由^{よし}縁^{えん}も^もあ^あら^らん^ん和^わ郎^{らう}が^が京^{きやう}縁^{えん}
 犯^おす^すと^とい^いは^はれ^れば^ばと^とく^く。こ^この^のま^まま^まま^まま^ま安^{あん}西^{せい}ぬ^ぬ。後^{のち}に^に由^{よし}縁^{えん}も^もあ^あら^らん^ん和^わ郎^{らう}が^が京^{きやう}縁^{えん}

倉を敵より受く。方のちくとくろつたまふ乳臭も失ぬ。咄と鳴びて利害と
 絶んとあつた。嗚呼人の子。宿魄を憐むと。慈眼視衆生。佛のどく草。夜と客をよ
 を。皇里福壽海。又他くうた。推う罪人。とよむ。留めく。その出宗。と招く。へた。宣ふを
 益の對面。スのくんと。あぐと。詈る。願をうた。拊つうち。笑へ。後。宣。宣。然。とう。つ
 咲く。ちつ。うらふ。その名。ゆえ。一。麻呂。ゆ。ふ。麻。呂。麻。呂。安。西。東。條。當。國。の
 舊。家。う。う。二。勇。悍。武。器。さ。も。と。と。あ。か。他。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。可。惜。し。た。と。る。が。親。不。
 い。李。基。ハ。生。涯。只。長。の。一。字。と。ち。り。く。ろ。く。た。り。ち。難。く。は。べ。と。と。思。ふ。結。城。へ
 宿。釜。電。り。京。海。君。の。大。軍。を。三。年。が。向。防。ぎ。と。め。て。死。又。臨。し。も。悔。し。と。せ。て。う。た。
 某。親。ぬ。及。後。とも。敵。と。か。て。て。て。逃。由。せ。ば。命。を。惜。く。走。り。も。せ。ば。亡。又。乃
 送。と。己。正。試。り。む。只。命。運。と。天。に。任。く。時。を。俟。んと。思。ふ。の。と。孫。倉。の。持。氏。卿
 初。世。さ。る。う。ら。ひ。時。安。房。上。総。り。と。バ。さ。ん。八。洲。の。武。士。一。人。と。く。心。を。傾。け。

腰を折。仕。仕。せ。る。も。う。う。り。持。氏。滅。亡。さ。る。ひ。て。幼。君。の。お。ん。ぬ。小。家。を。亡。れ
 刃。を。捨。く。武。朝。よ。ら。う。を。戮。し。結。城。小。笠。城。さ。る。稀。之。勢。利。一。属。人。を。懸。け
 る。た。め。る。れ。バ。あ。も。麻。呂。ぬ。一。安。西。ぬ。一。持。氏。卿。の。恩。を。と。る。と。西。官。領。の
 宗。と。か。そ。と。甘。木。と。容。と。と。る。と。袖。と。拵。を。退。り。る。現。管。領。ハ。威。持。高。一。
 國。の。武。士。隨。後。ひ。ぬ。か。そ。と。め。ぬ。か。は。と。る。れ。と。も。る。と。主。後。三。人。と。と。る。と。美
 実。と。い。く。か。そ。と。と。器。械。會。う。る。壯。士。ホ。は。結。り。せ。當。面。ハ。安。番。を。異。え。し。口
 ぬ。い。と。用。心。嚴。く。席。上。は。弓。箭。を。掛。劍。戟。の。鞘。と。外。刺。帷。草。希。の。内。に
 野。の。力。士。と。か。く。し。め。ぬ。の。つ。小。さ。や。と。結。ら。せ。し。信。時。忽。地。顔。を。ち。報。め。安。西。小
 目。を。注。し。且。日。東。連。の。ど。大。息。つ。た。し。の。牙。至。極。せ。り。弓。箭。ハ。武。士。の。翼
 る。り。劍。戟。ハ。凡。牙。小。等。一。く。刃。を。獲。る。を。の。く。せ。お。ぬ。放。さ。せ。ど。和。殿。と。威。ま。さ。る
 わ。う。ん。や。但。一。業。内。せ。り。め。の。と。も。小。器。械。と。會。せ。り。の。力。士。と。か。く。要。具。ハ。景。連。

家むらうもこれをききし。什麼汝亦何のぬふ止るたつをききし。
 かのと追退け。飾する。滄長刀の屏風をのみかきせけり。まづこの准信
 語。奥の障子の。安西麻呂が家臣志の遠侍へかきあり。屏風の背は
 退る。行を拭ふもまきりける。かきし。信時へかき。むす。小膳を
 引。對ひ。今示さる。御の越。その御。敵と。かき。命と
 惜。後運を天に任。時を俟んと。かき。東。源氏。かき
 舟のよる。かき。一國の主。かき。好。元。未。終。かき。安西氏を
 船。かき。餓。かき。食。かき。擇。かき。追。かき。路。かき。敵。
 かき。命。かき。惜。かき。迷。かき。恥。かき。かき。かき。かき。かき。
 舟の。飾。かき。かき。かき。かき。かき。かき。かき。かき。かき。
 かき。かき。かき。かき。かき。かき。かき。かき。かき。かき。かき。

進。かき。師。かき。かき。かき。かき。かき。かき。かき。かき。かき。
 麻呂大人の推量。かき。雜兵。かき。武者。かき。かき。かき。かき。かき。かき。
 命を惜。かき。敵。かき。追。かき。かき。かき。かき。かき。かき。かき。かき。
 追へ。かき。日。源。頼。朝。御。石。橋。山。の。軍。敗。かき。て。安。房。かき。かき。かき。
 ぬ。かき。安。西。の。先。祖。景。盛。ぬ。かき。東。條。かき。かき。かき。かき。かき。
 かき。かき。頼。朝。かき。かき。先。と。追。かき。かき。上。総。かき。かき。かき。
 大軍。かき。かき。かき。かき。かき。かき。かき。かき。かき。かき。かき。
 源氏。嫡。流。かき。八。幡。殿。の。御。末。り。かき。かき。かき。かき。かき。かき。
 かき。かき。かき。かき。かき。かき。かき。かき。かき。かき。かき。
 一。對。一。致。の。両。老。當。意。かき。かき。かき。かき。かき。かき。かき。かき。



八代傳卷之二

山崎屋

けいさく 忽地不声を激し。自行氏元不礼るせそ。これいづなり徳あり。
 頼朝は比んや。その漫々嗚呼と叫り懲りて追退け。勸解は寛る客がう小
 信時の眼を睜じてみみ又まきくおひらぎ。景連は肩揺く。塩ぬをく冷笑ひ
 あまのつ伴考一とく。いづ亦いづるめる里元の後者よく彼は頼朝の又
 義朝は十五ヶ國の節度使たり。朝敵とるるるる清盛もまきく入欽
 かれバ彼卿流入これだ。下へび兵を起はる及びく。昔恩をく東武土
 招びども属後ひぬ里見氏これと異るそのむ太郎義成はわら
 仕らう。采地一郷の外よりはむ勢僅に百騎は足らば中葉は宮さめて彼
 此は世孤老のびあへは鎌倉へ降参し。本領安堵をく色ども。それおま
 が回ぬ。今見る呀の落人主まら口を甜るは汝亦何の幾論あるん志を
 改めて景連は仕へるが。さむらうのつあぶらぶのほどく。とまきくまや。と

飽ちぐあぶと。養元も自行も。主のころを汲う。く再びこれと争うは。
 笑実へうち微笑安西ぬ。寔はあつ。あつれども人の口の中より立られは某
 この地はまきくはく。竹もあはは巷の風声。民の排務は止る。と家臣も
 主君の耳を塞た。告もせは疎もはせぬ。死不忠るのう。はや。氏元自行
 思ひくける。縣の禄を賜ふとも不忠の人と肩を比耳の聾する主君ははの
 と成程や。といわれ。景連はく。我を其行する。幾も。巷の風はく。ふ
 そや。と向の扇を膝に突立の手で曉ぬ。まや。こまも主人の人のころ。ま麻
 呂ぬ。ゆ又まらる。神餘安西麻呂の三家の舊文を漬く。まきみ足は。こ
 相佐けく。富國久く。其異る。小神餘が壁。臣山下。定色。奸計を。て。ま
 成ひ。忽地。二郡を。横領し。推く。國主と。称す。れども。神餘が。為。小。これ。を。討。す。阿。容
 阿容と下風小立て共濁と受る。民の排務も宜る。く。ばや。某この。サ。ヤ。

入れ。用らるゝものありて大馬の勞を竭人とあひいへそらるゝの免み。出陣の
 準備もええび終るゝその後及れ給はず志を演るよもほ。主後の剛藤
 の口官批評せられた神餘なる不定包と討ぐる勇由る。義のつた武士の
 憑くうも今ハも是まで罷出んといひあへむ。席城去んと志ぬハ景連
 言ふゆとめ。方寸を告さずさちりるも理り今要時生し人といひむ。ひ
 右に立遠る。信時ハ此中擬後せば。や義實けのさあの小東さう。ハ
 ぞ。軍旗のふるまはと霧に密るるかす。とま。とめ。面をえる和主のた
 多く竹城を告ん俺ハ勇あつや。な。や城みづら。あ。んと。さ。ら。の。刃。不。同
 う。と。敷。團。る。ら。及。ち。か。は。刀。の。鞘。も。成。掛。れ。は。さ。う。で。も。由。出。せ。さ。う。さ。ら。氏
 元も負れも主のほとり小徳と勇。八方眼を離る。麻呂が後者。とて。て。
 振る券を拵め。頻う小藤城進め。そのとたあ。景連ハ慌忙。き。横。る。は。

信時を抱き禁め。耳より口とさう著て。何ん。と。龍。論。龍。く。龍。右。を。見。久。り。く。
 願なり。と。安西が近臣。麻呂が後者。の。ろ。た。又。遠。く。立。つ。て。次。の
 房へ。ひ。ぬ。か。り。ま。し。且。も。義。實。ハ。扇。の。鹿。目。ま。じ。り。ま。ら。う。ち。な。る。め。争。は。席
 上。も。失。血。も。多。く。當。下。安。西。景。連。の。舊。の。心。も。う。つ。と。り。義。實。ハ。と。も。あ。ひ
 多。一。言。の。下。小。死。と。争。ふ。兵。士。の。風。俗。も。れ。ど。も。麻。呂。氏。に。討。れ。し。と。ろ。ふ。さ。ら。け。な。と。
 あ。れ。ど。の。時。と。場。を。あ。り。め。の。心。を。忍。ぶ。を。あ。り。め。危。う。さ。げ。か。く。あ。る。を。試。さ。る。ふ
 和。殿。の。軍。士。の。人。ろ。る。べ。し。や。結。城。の。守。將。も。う。し。も。今。こ。の。浦。は。流。浪。ひ。て。ご。が
 一。陣。に。支。加。り。彼。定。包。を。討。ん。と。る。ら。が。軍。令。は。北。背。死。う。と。ん。士。卒。と。共。志。
 抽。戦。場。は。大。功。あり。恩。賞。の。沙。汰。も。あ。ら。な。や。素。性。は。鋒。の。才。を。張。る。は。こ。の。ご。が
 屬。と。愧。る。と。ろ。う。が。こ。れ。軍。令。は。北。背。く。め。の。さ。さ。で。ハ。決。り。ま。く。用。ひ。が。し。和。殿。ハ。三。の
 ち。ん。の。く。彼。賊。を。うち。滅。ぼ。瀧。田。の。城。を。取。り。終。じ。二。郡。の。ぬ。ふ。る。あ。ら。ん。と。も。

あむらうと憾るし。かれはゆくも田舎中只この一強はあむらんの心を定めし
回答をせよと辭ゆあるは更度難義と老れど此ゆいふは後集ぬ舟より
より。うづの岸丁そ方のぬいたるれ。あむら底寮と夢りて用らるるにあむら何
ると睡みたる。うづの岸に仰せし景連うち白旗あつた。いさかのやう
努力違背あるべし。いさかの嘉例として出陣の首途は軍神を参る事あり。
その脰ゆへたたる。鯉魚を焼くふろえ。いさかの釣をわす。この鯉を釣せ
かへば。いさかの敵と組替へて。頭とつるふ同くべし。あむらとて。いさかの
義実固辞けし。いさかの義実ゆへに。いさかの主の後方より。いさかの
いさかの氏元貞初ハ左右より。その袂を引せむ。二人舟一進む。安西公ハ
嘉例と云言へとも。竿を斜めく舟に懸り。釣を下り。魚を捕る。その知目の
漁夫よ。いさかのいさかのいさかのいさかのいさかのいさかのいさかのいさかの
いさかのいさかのいさかのいさかのいさかのいさかのいさかのいさかのいさかの

あむらうと憾るし。かれはゆくも田舎中只この一強はあむらんの心を定めし
回答をせよと辭ゆあるは更度難義と老れど此ゆいふは後集ぬ舟より
より。うづの岸丁そ方のぬいたるれ。あむら底寮と夢りて用らるるにあむら何
ると睡みたる。うづの岸に仰せし景連うち白旗あつた。いさかのやう
努力違背あるべし。いさかの嘉例として出陣の首途は軍神を参る事あり。
その脰ゆへたたる。鯉魚を焼くふろえ。いさかの釣をわす。この鯉を釣せ
かへば。いさかの敵と組替へて。頭とつるふ同くべし。あむらとて。いさかの
義実固辞けし。いさかの義実ゆへに。いさかの主の後方より。いさかの
いさかの氏元貞初ハ左右より。その袂を引せむ。二人舟一進む。安西公ハ
嘉例と云言へとも。竿を斜めく舟に懸り。釣を下り。魚を捕る。その知目の
漁夫よ。いさかのいさかのいさかのいさかのいさかのいさかのいさかのいさかの
いさかのいさかのいさかのいさかのいさかのいさかのいさかのいさかのいさかの

みどく甲見が後者ホと助けくたりひひる。これの只管義実を移果さんこ
夫つまじも。和殿が宿ころりぬ。網長の魚をまじけり。と啣かばく吐けり。
景連次くうちほ笑。これ由又。ちより用意ハそれとも義実ハ名家の
子ろ。小冠者あれども思慮才学凡庸のめ。あきざ。又後者ホを面埋一人
共干とひら。飲さぬ。漫ふ。下さ。あ。も。野人を殺さん。獸窮まら。必嚙
自窮まら。必吐。況。勇将。猛。速。る。後。後。を。束。く。刃。と。受。ん。や。窮。も。懷。は
へ。つ。た。獵。師。も。捕。ら。ば。と。い。ろ。る。小。今。定。色。を。討。む。と。怒。る。死。人。を。殺。す。民。の
緋。袴。ハ。日。小。や。う。う。遂。入。大。事。を。成。さ。か。ん。と。さ。ま。と。う。長。安。を。の。処。當。め
猛。獸。を。養。ふ。と。早。晩。六。寤。寐。安。ろ。び。あ。び。て。首。削。兩。端。ハ。言。を。よ。存。す。
彼。主。後。が。雅。慢。を。壓。さ。祭。の。贄。を。求。め。り。陥。阱。を。造。る。め。安。房。一。國。み。ち
鯉。と。せ。せ。と。是。の。風。土。は。よ。る。め。飲。彼。奴。ホ。これ。を。煮。ら。ぶ。と。淵。は。五。深。は

汝。獵。つ。づ。小。日。と。り。て。城。守。と。か。り。軍。法。と。り。て。是。斬。ん。か。て。を
殺。も。も。その。罪。あり。と。か。松。と。い。へ。う。べ。く。宣。彼。を。助。ん。や。と。誇。自。己。説。示。せ。ん。
信。時。ハ。笑。呼。入。り。堂。と。下。と。鼓。謀。ゆ。く。極。て。妙。現。懸。又。智。表。じ。義。実。龍。田。は
赴。け。く。定。色。又。後。々。虎。又。翼。を。添。る。ん。と。う。と。く。用。ひ。る。ハ。庇。を。食。て
母。屋。を。損。ハ。悔。は。し。と。い。ひ。ざ。と。由。後。は。これ。を。殺。し。謀。ま。り。め。る。呼。奇
ろ。ろ。ろ。の。妙。あり。と。只。管。賞。嘆。ま。り。ける。かり。程。は。義。実。ハ。白。濱。を。旅。宿。へ
と。歩。の。運。とい。は。れ。と。途。い。と。遙。る。り。け。は。か。り。も。著。る。で。日。ハ。昔。春。と。り
抑。安。房。の。白。濱。ハ。朝。夷。郡。の。内。ふ。く。和。名。鉢。又。その。名。ん。え。く。い。と。も。舊。言。に
御。又。ろ。ん。瀧。口。村。は。接。と。い。今。ハ。七。浦。と。唱。る。の。と。の。濱。邊。の。惣。名。ろ。り。里。う。ん
氏の。首。趾。その。寺。る。い。も。す。く。ふ。あり。呼。謂。安。房。の。七。浦。ハ。川。下。岩。目。小。戸。湊
浦。原。乙。濱。白。間。津。是。之。所。結。ハ。さ。て。お。た。つ。義。実。ハ。その。曉。く。白。濱。へ。か。り。つ。

目睡もせしむ漁獵の用意を志す人ハ氏元貞躬歎む君もたは嘆り多しや。
 信時ハ匹夫の勇者景連ハ能と忌む才と謂く甚僻り我とるる仇のどく。
 憑ける人の為は鯉をあそりて竹ゆせんを中上徳へ赴てその毒惡を
 避ぬ人とのりた小凍くが義実成りち掉く否你達共見へたさう。麻呂
 安西人ともり。利親親く義小凍く。口と行へるうへめく。定包をおそり
 の。瀬田を討のめさる。と志すふあふ終とも。あはれ避く上徳へ赴て彼
 知も又如此るふ下徳ハ敵地と。そのと死行歎むく。君ハ時をゆる樂ま
 時を失くも亦樂む。呂尚ハ世ハ公望也なり。齡七十小傾くまてよふ
 人の老るめは。涇濱は釣く文王ハ值偶ハ紂王を討滅く大功あり。成月
 國ハ封られ。子孫數十世は傳く。太公望とらか。のぼ。これハ時と執方と
 両るが失ふめは釣くるまは嫌んや。且鯉ハめでた魚ハ傳聞安南龍門

の鯉瀑布は流ると化しく龍とるといへり。これ三浦を龍尾とてり。
 今白濱へまふ小及びく。人又鯉を釣ると公前象後兆憑く。むむ獲あふ
 齋く。景連がせんやと姑く。んとあはれ。曉るがむんといそじ。あはれ元由
 貞躬もその高論ハ感服く。釣を求め。公于代その人割。邦と要。小括著て
 主後三人名もあふぬ。淵をこつ。く。中。初。小森の鳥。由。梢。と。ま。れ。く。
 天ハやのぐと明みり。

第四回

小湊は義実義と聚む
 色内小孝吉雙を逐ふ

却説義実主後ハ此の池彼川と淵とこつ。池は立て途より途より日と清せむ。
 白濱の旅宿へつ。む。む。む。長。按。郡。白。著。河。は。流。獵。不。ふ。や。三。言。せ。
 かりふける。日。数。由。け。か。を。限。り。と。あ。へ。ば。さ。ら。頻。小。焦。燥。の。と。獲。ハ。殊。は。あ。り。ま。ら。ず。

小鯉こまひと小鯉こまひとの死し鯉こまひとが釣つりたる後のちは千劍せんけん振神しんの代しろは彦ひこ大おほ生なま見みき
 丁ちやうを失うしな中ちゆう一いつ釣つりたる海龍宮かいりゆうきゆうの遊あそびひきと又また浦うら崎さきの子こに似にて魚うしほ釣つり鯛たい釣つ
 後のち七日しちにちたぐ家いえの中ちゆうに來きてあそりけし御ご小こ今け由ゆ引ひく糸いとの紊みだれ苦くるし死し主ぬし
 後のちのどのども面おもてとあつて育ひかり一いつ嗟あは嘆なげきたりけり浩ひろ然じ河か下げより声こゑをを呼よぶ小こ
 唄うたひつ。あつてを望まをむるあり。主ぬし後のちこれを見みれば最さい達たつげたるを思おもへ
 什なに麼ものの多おほく打うち扮はなぞあり乱みだる髪かみは春はるの末すえ黑くろの芒あざの如ごとく播は垂たと衣え裳もの
 杖つゑの浦うらより海うみ松まつは似にたり。ひとものりぎ顔かほともひらきあやし死し瘡くさのいで死し
 人ひとの皮かわ膚ぶは死しめとや熟じやくせるは品しん枝えだ裂される柘せき榴りゆう巨きゆうなる墓はかの脊せきといふ
 とも。あつてあつてあつて。さても今いまの惜おしきりめ多おほくせし疎それ人ひとは娘むすめれても死し
 死しぎりける。うちてても思おもへたは果はつとも思おもへざるぬや底そこ斜しやるる面めん桶づつと
 うち鳴なり。死しる声こゑは思おもへと思おもへと。白しろ帆ふをさす風かぜの

安房あひの水みづ門かどより船ふねの浪なみは碎くだけど潮うしほの中ちゆうの朽く木きを人ひとより引ひけ。これゆひら
 見え。く返かへりて身みを死しせしとく行い違ちがはとと。彼か人ひとこの釣つり成なつくと
 うちえてと。流ながる膿うみ血ちの臭におひを主ぬし後のちの鼻はなと掩おほふとと。逝いなり。とあひ
 める。こ見みへ立ちとと。中ちゆうよりと。思おもへる。よの肉にくをさし死しある刀やいば
 祿ろくむの釣つりたるをさし。死し或あるは鯉こまひと或あるは鰻うなぎ釣つり。舌しほをさし皆みな捨すて。行いとを獲と
 ちり思おもひもとと。思おもへる。同おなれと氏うぢ元もとへ。己おのれと死しる。むと死し回まわり。否いなく欲ほむるぬの
 鯉こまひとへ他ほか魚うしほへ好このむ。うとと。益えきの殺ころせとと。思おもへる。のどらば放はなせ。とら我われこ
 見みへ。あつて腹はらと抱かかり。ち笑わらひあつて鯉こまひとと求もとむ。へ仇あだ後のち中ちゆうより。死しと死し
 伊豆いず大おほ崎さき小馬こまを向むかひ。ち海うみ勞ろうり。ち功こうる。死しるぬを思おもへる。ち聞きこひ。ち安房あひ
 一いつ圓まるの鯉こまひとを生なせ。又また甲斐かいの鯉こまひとをトと。思おもへる。その風かぜはよるぬ。又また
 後のちは二ふた圓まる十じゆ郡ぐんから。ち死しる。彼か魚うしほへるぬ。ち波なみ巨きゆうの看みるぬ。ち死しる。ち死しる。

そのるた物状求めぬの、実小益の殺生るん。とあきと傲りの骨を
 拍く。又河ことうち笑へば、長実お不えど、竿を捨現、巨魚の池中、不生せじ。
 大鵬の燕雀の林、又たむご、これいづるも、世に抜く天高き、も踊り地を
 厚きことも踏く。安房一郡の主、小まき容られど、然る成喻を、統り取り。
 今又鯉、久後を、おひよせし、愚癡ありた元来、鯉のこの地方、さりとて、
 つつせよ、といひつる人の心の底、濁はるが、執ええと、あはれ、伎倆と、今む
 老る。このこ見、逢さり、世に彼毒計、あてり、とるん危うし、と今又、
 只管驚嘆、もあへ、と見、これを、愚と、さのを悔く、おひよる、陸奥、あも
 鯉、入る。彼、五十四郡あり。あられ、鯉の生さると、せせさると、その國
 郡の大小、よるぬ、あられ、一國十郡、元来、鯉、一といひぬ、の牽
 強附会の、臆、るるま、と、十室の邑、あも、忠信あり。警、八里見の、河曹司上、も、

人と、つと、一個、國、知、ふ、よ、る、あ、この、知、は、漂泊、く、膝、と、容、る、この、室、る、如、し。
 といひ、主、後、目、と、注、く、こ、見、の、顔、と、う、ち、熟、視、る。そ、中、小、義、美、か、う、ち、ゆ、ゆ、毎、
 嘆息、人、の、形、貌、お、う、う、ぬ、ぬ、の、う、る、汝、が、辨、論、と、見、は、似、と、楚、の、狂、接、輿、の、類、
 る、の、軟、又、彼、光、明、皇、后、は、垢、と、搔、世、持、者、の、類、軟、固、より、吾、と、と、る、の、軟、の、
 名、を、ら、ぬ、よ、う、一、れ、と、研、り、ぬ、ら、元、と、咲、た、人、の、往、還、數、う、り、精、あ、
 と、て、先、又、主、後、の、は、折、る、う、ち、遠、く、竿、と、あ、さ、り、て、後、は、跟、付、ぬ、折、は、
 小松原の、御、近、山、蔭、小、徒、引、と、お、の、が、脊、よ、う、ち、被、る、菘、を、脱、く、塵、う、ち、拂、ひ、
 樹、下、よ、う、ち、布、兜、く、美、実、と、居、ま、わ、ら、ま、れ、ば、氏、元、と、負、初、ハ、夏、草、と、折、敷、く、
 主、の、左、右、お、つ、ふ、ぬ、り、當、下、こ、見、の、遠、巡、く、恭、き、額、と、著、し、や、こ、見、糸、入、
 是、る、の、よ、い、ひ、不、審、と、と、る、え、こ、見、の、神、餘、長、挾、ぬ、光、弘、が、家、隸、は、金、碗、八、郎、
 孝、吉、と、い、れ、ぬ、か、る、果、ぬ、く、い、は、金、碗、ハ、神、餘、の、一、族、歴、こ、る、武、士、の、れ、た、



白箸河
 勤
 義実
 義士
 史



金碗孝言
 夜里人
 六つむ

庶子より父のつゝ家臣とありぬ。老れども老臣の第一席のひひ一々其を名く
 父母と誓ひ手する所は尤も死がまじき。その職は堪えとて。このとては微禄せよとて。
 僅に近習小使れり。つゝ主君の行状よくをよむと好み酒は荒し側室玉梓は
 惑溺し。後堂の内と出む。任人定色を重用し。賞罰を任せり。これより
 家則いゝ々紊れり。神は怒り人へさしめり。その危きと對卯を累する其の
 とも老當は禄のぬよ。その罪をよりつゝは疎疎民へをせり。訴へて君を
 及びつゝ法と犯し。これを曉るより。ふまむ。其類は面を犯して争ひ練れ
 どもそのふひは比干が肝を刀尖小串た伍子胥が眼を東門に掛るまで
 老練めく用ひる。是も死むや。と多ひひひひ。つゝと多ひひ入せ。臣にて
 君の罪をいふその罪も又輕く。大夏の覆んとまるとは。一本のついでこれを
 柱ん身退くより外は。と既深念決一。郡古七郎天津兵内といふ。而

個の同僚の志気告る。世妻子を死のむや。と夜に給れり。逐電し。
 上総へ赴き下総へも。越上野下野いづら。陸奥の盡知を。旅より。様小日と
 強。便著の。做得。方劍術。巻法の師範と。呼れり。是首小半年。彼首小一季
 かの月日。由つと。つゝ。これ。バ。や。五。年。以。て。故。主。の。安。否。口。を。い。ふ。今。茲
 竊に上総より。還り。て。奈。麻。余。兵。の。甲。斐。及。了。を。い。け。且。主。家。の。滅。亡。皆。定。命。が
 逆意。よ。起。り。て。松。本。村。平。五。坊。三。ホ。が。獵。箭。小。命。を。隕。し。多。と。使。つ。つ。と。た。腸。出
 離れ骨も。碎る。心持。せり。件。の。朴。平。五。坊。三。ハ。父。と。た。より。生。育。せ。年。及。使。は。私。平
 ろう。彼。も。と。と。家。の。劍。法。を。傳。受。り。の。俠。義。を。の。め。る。は。農。家。の。子。め。い
 せ。れ。て。も。耕。耘。る。め。好。ま。ざ。ら。し。つ。つ。と。い。ひ。ん。某。は。棄。て。ま。さ。く。又。土。民。の
 ろう。い。つ。も。苛。法。の。苦。さ。は。主。の。仇。の。讐。言。の。定。色。を。射。て。殺。さん。と。さ。り。矢
 坪。成。る。れ。り。と。と。所。約。成。る。と。推。量。し。ハ。殺。さ。る。も。怒。倦。ぬ。彼。逆。賊

祖殺んと多くとも面は豫くえきとて近づくやあられの晋の豫漢未做ひ
 つ。乃に漆く姿を窺ひ。日母は瀧田を徘徊して回る時ある窺ふたあつりし
 後りとるど怪しむ人の多死にわら後。且く彼知瓜遠離りく。よかへは種まふ
 隠れるた巷の風聞里見冠者義実ぬ。結城の屯と脱とて麻呂安西とこの
 多と彼人の能と忌と才を媚らとこれを用ひむ。刺言或殺と殺えと討れる
 下。不思議は耳ふるといつた君は告るん因にあんぞ。下へは名瓜はひら
 只嬰児が垂乳母と草心持はさるのうら。その行かるとちつけふ人又回へ死
 ところうねる宵の苦。そのあどとらでめづりもあらんとと彼此とる呻吟つ。
 けふのふととる著の何ははあれが物きり刀枯む。他郷の人とおぼし人表骨
 相平人なむ親しくとてても礼儀は稱ふその為体は其後を自ら正しく彼君とてえ
 と推量れとも白地はいつらととる諸漕は。黄が舟歌は擬へく。事情と述りし何

とらせせひえ里ええととる里えの君をゆると執が民の心を表しとら白帆支
 とせ風もよりとら白帆の源家の旗とゆふととる兵と揚めり威風は靡ぬ民草
 ろ。とらとらとら我隠し。安房の水門へる船は浪は碓けは潮の朽む人
 了とらけは下もむとら荀子は所云君は船へ君今漂泊あるひて麻呂安西ふ
 忌嫌れ難きとむらび人とも團入るべと見見肩とて中つら竟とあふあ悪る
 瀧田山平館らる剛敵をうち平けらんと祝とめら祖る今義は位は旗兵
 揚猛は瀧田推寄せと。定包が罪をわと短兵息と攻めら一挙とて城とあ
 さん彼城既と誅伏して平郡長抜を取めら。麻呂安西ふ討むも倒れん先ふ
 とら人を制し後ととら征せらる。とらあひとら多入彼城は如此に筒様
 筒様と地理要害はふととら述とら氏元由身初ゆよ小憑死心持と。
 頻は耳後側とら。かひけはとら長実入その後と後とら気さる。いれとら呀れ

過より謀よりといふとも。寛きなり。衆に敵し。況んや浮浪人か。行因に
郎方と集ん。今只主後二四人。龍田の城を攻んとせむ。蟻蝦が各を揚て車はひた
異る。つと及ぶ。と辞め。金碗八郎小腰。かきを先い。うらぐ。ええの。あの方の
大約二郡の民百姓。逆賊に虚げらる。怒骨髄に徹るといふ。かきを揚て車はひた
おと。且く渠は後人の。人として。義なる。草木の日影。向ふが。君今
こ。小狐袖を辞せ。神餘が。逆賊村民の土炭を救んと。こ。旗を揚め
蟻の密に聚る。如く。響の物。お。皆。支集り。仁義の軍。命を擲生
る。定色。穴を。願。の。や。孝吉物の。後。計畧と。え
あ。衆人と集合んと。皆。の。易。計畧の。同。ま
密語。義実。有。理。と。應。こ。と。点。の。小。側。は。氏。元。木。の。奇。か。り。
奇。なら。と。感。嘆。こ。又。こ。孝。吉。を。と。る。四。う。さ。る。も。熟。視。り。惜。む。金。碗。の。

忠義の。い。ひ。る。が。皮膚。の。瘡。は。包。と。く。つ。く。人の。面。報。ひ。さ。の。郎。方。と
集。る。小。者。人。あり。とも。名。告。ると。も。そ。と。こ。ひ。う。け。る。の。その。瘡。の。頭。は
愈。る。良。薬。も。く。不。便。の。之。某。剤。も。く。と。慰。れ。の。孝。吉。の。袖。と。擡。揚。故。老。の
の。ゆ。ゆ。め。と。く。遂。は。廢。人。と。う。ね。と。も。彼。逆。賊。を。滅。さ。す。足。る。ん
の。を。こ。が。ぬ。小。の。軍。兵。の。後。面。報。ひ。さ。る。とも。お。お。なり。も。妨。は。ひ。懸。念
え。あ。る。と。い。ひ。腕。を。た。拊。且。ん。義。実。且。く。沈。吟。す。志。の。あり。る。ん。さ。ら
と。く。愈。る。瘡。も。バ。愈。え。と。あ。る。と。あ。ら。ば。瘡。ハ。蟹。と。忌。め。ん。これ。ハ。漆。を
搔。く。家。少。く。の。蟹。を。食。ふ。と。あ。れ。ハ。漆。を。食。ふ。と。く。と。く。と。ら。ん。より。そ。ら。は
今。その。瘡。ハ。漆。の。毒。に。觸。れ。る。と。内。より。潰。れ。の。り。ぬ。蟹。を。の。く。この
毒。を。解。は。立。地。は。愈。り。や。せん。用。ひ。こ。と。家。は。孝。吉。の。智。小。感。佩。と。遂。は
又。是。を。推。辞。は。こ。の。浦。曲。ハ。蟹。ま。り。の。を。試。し。り。んと。さ。う。け。さ。う。は。お。の。は。

蟹の子どもが此のうへは魚籃を載つてまよひけり。氏元遠くへと
 心とまひ行くと同ハ蟹入り。ある愛すと笑るがう送り多く買とるふ。その
 数三十ありありあると。美実これをぞと。箇様せせと。教めハ孝吉ハこころの
 果てそのせハさるが。甲を破たてて全身よぬる。その間又負初ハ腰を
 燧をうち鳴じ。松の枯枝を折焼て。ゆする蟹を炙り。甲を放足とて。孝
 吉又與を。ゆするも。強さ。腹をさ。今よ。臭く。膿血ハ乾き。瘡加
 只掻く。腫ハ脱落。大う。う。念。現。相。馬。路。跡。の。溜。水。と。積。小。こ。こ。面。赤。と
 憐。く。奇。特。と。示。似。奇。く。と。氏。元。ハ。負。初。の。ろ。共。後。つ。横。身。を
 りて。噴。賞。し。あ。れ。え。と。指。せ。ハ。孝。吉。ハ。馬。路。跡。の。溜。水。と。積。小。こ。こ。面。赤。と
 つ。と。ん。つ。感。涙。を。禁。め。皮。膚。ハ。つ。け。ぬ。ぬ。推。乱。せ。瘡。今。立。地。は
 愈。る。み。文。玄。の。道。ハ。長。久。良。將。の。賜。り。名。医。ハ。四。圍。を。医。さ。ると。や。某。が。為。む。と。ハ

肩もひらきと。乱し。一。團。を。うち。捨。め。民。の。苦。難。を。救。ひ。ぬ。る。宜。小。の。死。仁。徳
 ころんけと。ころハ。麻。呂。安。西。が。米。地。ハ。ゆ。ひ。り。や。限。る。日。と。は。彼。ホ。の。せ。と。と
 か。ろ。ん。竹。さ。り。と。と。種。豫。ま。た。小。あ。ら。む。嚮。ハ。密。語。や。う。せ。て。と。ま。や。彼。如。へ
 赴。た。多。人。と。叮。嚀。又。執。めん。蓬。の。髪。ハ。搔。あ。げ。と。髻。短。又。引。結。ハ。腰。ハ。繩。の。帯
 る。が。う。隠。し。て。の。て。る。七。首。と。さ。く。往。方。ハ。小。湊。の。浦。曲。廻。ハ。誘。引。ぬ
 する。箱。ハ。金。碗。八。郎。孝。吉。ハ。里。見。主。後。ハ。御。導。と。く。小。湊。へ。赴。け。ハ。夏。は。ひ。か。ら
 とも暮。く。尤。日。あ。り。の。月。ハ。お。づ。待。と。る。と。と。出。や。む。と。只。誕生。寺。の。鐘。の。声。傳。れ。ハ
 亥。の。時。つ。つ。と。て。も。こ。の。小。湊。ろ。ろ。高。光。山。誕生。寺。ハ。敢。川。村。の。うち。あ。ら。ん。且。連。上。人
 出。す。の。地。ハ。紙。の。と。日。家。上。人。閑。基。と。く。一。宇。の。精。舎。を。建。立。し。誕生。寺。と。名。け
 とい。つ。て。を。良。賤。濁。仰。し。念。ハ。檀。那。と。る。し。法。門。長。久。ハ。警。昌。ハ。俗。よ。の。上
 徳。の。七。里。法。華。安。房。七。浦。の。經。宗。と。く。大。久。題。目。宗。ろ。ど。も。就。中。長。挾。郡。ハ

へ。いさゝか舊の國主お仕。金碗八郎孝吉あり。曩ゆハ君と練ふてひるるも
 身退た旅宿小生旅終。いさゝか舊恩のうらみたる逆臣定包と結むる
 隙びく故郷立わりの名と変姿を窺ふ。とまきく隙と窺とも人畏れれば天
 掟雙言ハ三里の城居る万人の後類あり。豫讓が劍を橋下は磨又あるとたハ
 忠光の眼を魚鱗小西覆ともわひる。さうとさう平館山なる麻呂安西ハ心
 逢く逆は與一と恥とせむ古主は舊交ありといふとも。さうら小枝密と告げし
 形るた世は憤り。墓るたこの才を恨の怒と現身の息の内を秘する。さう
 死すの後は又大ふるり。遂に怒と復さんゆ。腋と切るとさ折里目冠者
 矢実ぬ。結城の寄りやを殺脱く。白濱は漂泊。安西ホと頼るゆ。復ホは忠
 志は。田舎の箇様。い言は殺て殺さんとせうとも。縛いさうの期小至る。は
 これとさう。白著の河畔の初めひをり。忽率と掛ひけく。竊小越をなり。小

彼君幸る。何はしといふも。言語應對仁あり。其のん。實小文武の良將ハ大納
 結城は蓄り。武上或ハ新と生拘られ恙るた。稀なる小主後不思。幾小席口を
 脱れ。あ。小漂泊志ある。さう。さう。の幸る。は。彼逆賊定包。小年来い。さ
 虐ら。且。そのびく。小うち。歎く。你達。が。福。さ。さ。や。さ。や。彼君。は。後。ひ。お。お。せ。定
 包。と。滅。さ。む。は。是。則。賊。民。之。國。さ。ぐ。餘。殃。と。受。ん。國。の。ぬ。小。逆。を。討。ま。は。仗。侍
 の。ハ。良。民。さ。ぐ。土。炭。と。賤。と。く。子。孫。必。餘。慶。と。受。ん。今。この。工。成。吉。ん。と
 さう。小。言。ハ。必。洩。易。く。む。さ。う。く。小。ひ。さ。う。さ。う。さ。う。已。工。成。は。さ。火。を。揚。て。さ。の
 實。集。會。さ。う。さ。苟。且。の。工。さ。う。と。び。と。町。嚙。は。鏡。示。せ。バ。會。飲。く。の。ろ。小。拍
 ぶ。さ。う。く。窺。れ。ひ。さ。う。面。影。は。認。ま。る。の。ぬ。金。碗。ど。の。と。さ。ひ。け。さ。う。さ。う。の。た
 工。成。ひ。つ。る。さ。う。不。礼。ハ。ゆ。り。さ。せ。ゆ。さ。う。素。より。智。ゆ。る。く。才。ゆ。か。く。虫。は。さ。う。た。俺
 們。さ。う。さ。う。誰。の。國。主。の。舊。恩。と。忘。る。へ。た。誰。の。定。包。と。う。ら。め。く。さ。う。さ。う。憎。く。と

又とららるる及り勢ひ當るけき月日は或照るや。とうち勤むくひし。
 ちつる小里見の君の。誰とらるる小見声と素姓と高の源家の嫡流世々四子ある。
 良将へとやぶつる日より暮るく。あぐ足を翹く。渴望せざる。りつめは。夏は日より。む
 苛醒き。あせ天候。病萎む。民草を憐く。あは軍を。おのの。城。四の六幸あり。
 孰も命を惜む。其莫の金碗。これの。より。やめんと。辭ひとく。心。る。孝吉後
 方を。ん。あ。り。く。其。れ。め。く。あ。せ。ひ。え。ん。と。名。縛。成。く。ゆ。こ。心。内。や。る。自。が。義。実。の。氏。元
 負。れ。を。將。て。救。護。す。り。徐。こ。と。進。む。出。く。衆。人。より。ち。對。ひ。日。日。二。を。里。見。義。実。の。れ
 乱。る。世。の。殊。文。は。口。前。と。る。方。の。ら。ら。ひ。と。修。羅。闘。場。は。奔。走。し。矢。傷。の。多。く。と。る。
 の。ろ。ろ。悪。木。の。蔭。に。憩。む。さ。も。と。く。民。の。又。母。こ。ら。ん。その。徳。後。て。は。し。と。い。へ。ど。の
 人。情。こ。を。捨。し。と。る。つ。ば。こ。亦。そ。の。後。よ。う。ご。ら。ん。や。譬。が。千。里。の。駿。馬。も。その
 足。を。支。り。ざ。り。万。里。は。羽。を。振。大。膽。も。負。る。る。と。い。は。れ。と。の。ぞ。これ。の。孤。独。乃
 ち。武。者。の。れ。今。衆。人。の。佐。を。た。り。遂。よ。る。の。は。と。る。う。ま。さ。ら。れ。滝。田。の。剛。敵
 の。馬。物。具。整。正。つ。と。兵。糧。の。貯。る。へ。能。く。走。む。と。い。ふ。こ。可。ろ。う。ん。と。向
 る。く。衆。皆。面。と。あ。り。現。考。う。かり。と。さ。ら。る。小。要。時。回。答。は。せ。り。け。り。そ。中。の
 村。長。と。お。い。く。く。老。る。の。西。三。入。班。を。と。る。と。く。ま。て。出。定。し。所。旋。く。い。へ。ん。
 聊。愚。按。と。ら。る。り。凡。長。披。一。郡。の。定。包。が。服。胎。の。老。堂。妻。毛。酷。六。が。あ。つ。り。ゆ。く。東
 條。に。在。城。せ。り。ま。は。瓜。さ。る。と。遠。う。ま。む。且。緯。の。い。あ。り。せ。小。酷。六。を。頼。む。多。く。物。具。兵。糧
 し。の。い。ま。ら。し。一。郡。忽。地。お。ん。ひ。小。入。り。る。ん。わ。く。く。滝。田。と。攻。め。く。進。退。自。由。い。い。へ。ん。や。こ
 言。委。細。は。生。口。ま。う。せ。が。義。実。感。嘆。大。く。と。ら。る。は。び。頼。り。小。左。右。を。え。り。て。あ。ぐ。の。れ。と。
 彼。ら。の。飲。野。夫。中。の。功。者。あり。と。さ。の。使。示。を。い。ふ。べ。た。り。奇。武。士。の。敵。を。と。ら。る。を。
 神。速。る。る。小。左。の。め。ら。今。宵。直。さ。と。推。懸。く。彼。れ。は。信。り。た。れ。か。終。ん。箇。様。と。い。は。せ。り。
 う。と。謀。を。示。す。へ。孝。吉。ホ。ハ。さ。ら。る。は。ぬ。く。氏。元。負。れ。ら。る。共。に。聚。合。し。村。民。を。救。む。り。

又とららるる及り勢ひ當るけき月日は或照るや。とうち勤むくひし。
 ちつる小里見の君の。誰とらるる小見声と素姓と高の源家の嫡流世々四子ある。
 良将へとやぶつる日より暮るく。あぐ足を翹く。渴望せざる。りつめは。夏は日より。む
 苛醒き。あせ天候。病萎む。民草を憐く。あは軍を。おのの。城。四の六幸あり。
 孰も命を惜む。其莫の金碗。これの。より。やめんと。辭ひとく。心。る。孝吉後
 方を。ん。あ。り。く。其。れ。め。く。あ。せ。ひ。え。ん。と。名。縛。成。く。ゆ。こ。心。内。や。る。自。が。義。実。の。氏。元
 負。れ。を。將。て。救。護。す。り。徐。こ。と。進。む。出。く。衆。人。より。ち。對。ひ。日。日。二。を。里。見。義。実。の。れ
 乱。る。世。の。殊。文。は。口。前。と。る。方。の。ら。ら。ひ。と。修。羅。闘。場。は。奔。走。し。矢。傷。の。多。く。と。る。
 の。ろ。ろ。悪。木。の。蔭。に。憩。む。さ。も。と。く。民。の。又。母。こ。ら。ん。その。徳。後。て。は。し。と。い。へ。ど。の
 人。情。こ。を。捨。し。と。る。つ。ば。こ。亦。そ。の。後。よ。う。ご。ら。ん。や。譬。が。千。里。の。駿。馬。も。その
 足。を。支。り。ざ。り。万。里。は。羽。を。振。大。膽。も。負。る。る。と。い。は。れ。と。の。ぞ。これ。の。孤。独。乃
 ち。武。者。の。れ。今。衆。人。の。佐。を。た。り。遂。よ。る。の。は。と。る。う。ま。さ。ら。れ。滝。田。の。剛。敵
 の。馬。物。具。整。正。つ。と。兵。糧。の。貯。る。へ。能。く。走。む。と。い。ふ。こ。可。ろ。う。ん。と。向
 る。く。衆。皆。面。と。あ。り。現。考。う。かり。と。さ。ら。る。小。要。時。回。答。は。せ。り。け。り。そ。中。の
 村。長。と。お。い。く。く。老。る。の。西。三。入。班。を。と。る。と。く。ま。て。出。定。し。所。旋。く。い。へ。ん。
 聊。愚。按。と。ら。る。り。凡。長。披。一。郡。の。定。包。が。服。胎。の。老。堂。妻。毛。酷。六。が。あ。つ。り。ゆ。く。東
 條。に。在。城。せ。り。ま。は。瓜。さ。る。と。遠。う。ま。む。且。緯。の。い。あ。り。せ。小。酷。六。を。頼。む。多。く。物。具。兵。糧
 し。の。い。ま。ら。し。一。郡。忽。地。お。ん。ひ。小。入。り。る。ん。わ。く。く。滝。田。と。攻。め。く。進。退。自。由。い。い。へ。ん。や。こ
 言。委。細。は。生。口。ま。う。せ。が。義。実。感。嘆。大。く。と。ら。る。は。び。頼。り。小。左。右。を。え。り。て。あ。ぐ。の。れ。と。
 彼。ら。の。飲。野。夫。中。の。功。者。あり。と。さ。の。使。示。を。い。ふ。べ。た。り。奇。武。士。の。敵。を。と。ら。る。を。
 神。速。る。る。小。左。の。め。ら。今。宵。直。さ。と。推。懸。く。彼。れ。は。信。り。た。れ。か。終。ん。箇。様。と。い。は。せ。り。
 う。と。謀。を。示。す。へ。孝。吉。ホ。ハ。さ。ら。る。は。ぬ。く。氏。元。負。れ。ら。る。共。に。聚。合。し。村。民。を。救。む。り。

一百五十餘人あり。廻れと三隊よこけ。煤を燃せし會飲く令其兼めおき死の
 旨まらる。巨竹を伐しりく。竹槍とくく扱む。その一隊は四十餘人堀内貞初とて
 おく。假し金碗孝吉と縛つ。先陣は進み。こま則其真の計畧おとす不る。後陣
 へ則五十人杉倉氏元大將より中軍は六十人長実みづら將とく。二隊を
 同徑より遠り出城の正門のほとりゆ。一隊はるるんとしそびり。さるは東條
 定包が目代る。某も醋六郎元親小湊の火を結めよとく。甲夜ゆ夥兵を出せり。
 火へちや城へ里遠死野火るるより城守ゆ。夥兵の途より吹りつ。再寐の夢を
 結ぶ。暗くちくちくふる。浩如入夥。正門の城戸を敲く。小湊平を駭
 させり。誰と向。小湊なる。敢川の村長亦が盜賊を捕へとく。牽立て來つる人
 縁故を尋れ。さし甲夜の同。誕生寺の竹藪る。野火と滅んとする。殆ど海者
 捕へり。力量早技面魂。九庸ののれあふ。軀く出越責問。口の罵くは實を

吐き。ある人ありてまうはす。渠は舊の四主は仕。金瓶八郎孝吉といふのる。古
 主の讐を復さんとく。姿を窺。名を變て。月さる瀧田を徘徊。世緯分明。頭
 下り。あは煙る。さし罪人る。ふり過失。くませる。後難。適る。もあふ。よ
 して。曉る。紙ま。びり。く。大勢。と。お。く。ま。り。ぬ。これ。ら。り。城。中。へ。人。と。吉。高。や。ふ
 折る。そのと死門平へ竄推用き。つぐ。ん。く。く。く。を。考。く。是。要。時。等。ま。じ。て
 入とんと。應。あ。へ。む。戸。を。引。立。と。ま。り。去。此。彼。ゆ。や。ま。り。け。ん。且。く。く。瓦。落。こ。こ
 門の音。響。め。して。角。門。城。推。却。死。皆。く。入。と。呼。入。ら。る。は。縛。ら。し。る。態。を
 考。く。先。は。進。き。考。吉。の。索。を。は。ら。り。と。揮。解。死。左。方。は。立。る。兵。士。の。刀。は。鞘。に
 ぬ。城。掛。く。引。板。棄。く。礮。と。破。る。刀。の。光。り。共。頭。の。死。地。小。落。り。り。と。ひ
 かけ。多。死。の。る。と。び。く。狼。藉。や。と。ま。り。り。小。慌。忙。兵。士。と。追。立。進。む。身。の。孝
 吉。ホ。ホ。カ。を。敷。く。薙。倒。し。破。抄。ひ。入。郷。は。る。と。く。と。や。二。の。城。戸。へ。攻。つ。け。り。

其間又莊客們の大門を推して死闘を吐と揚し六氏元と二隊より溝端らへ
 寄りける。美実これと使あへむ時分今ぞ國をぬるまゝ進めと今もあへ
 衆人竹を勇ざらん。糞く合まる國の声勢潮の涌ど。暮地又走入りて二の城戸を
 うち破り。狗堂の茶毛とく出よ。里見討者美実ぬ。その地小懸進志のひ。城
 衆人推く主君と仰死ぬ。されば逆賊定包をうち滅し國の汚穢を掃ふ仁美の軍の
 誰の敵せん。そのゆくところ。過るところ老弱簞食盡す。これと迎せり。只今彈のひの
 せぬ。ちづこの城を敵りぬ。先非と悔く。老ぬの降糸く。頭を續け。惑ひこころ
 玉石とり。共の碎けり。えい。と喚うけく。横横を身小播され。城兵よ。辟易
 老。防死戦ととる。のみ。胃と脱弓。前と棄。食待伏く。命をこぬ。里見
 長実ハ刃又。畔とく。東條の城を乗取り。賊將茶毛。酷六を。果あふ。果ハ。あ
 亡く。その性方と。あへ。びと。の。美実。あ。く。眉根を。よ。せ。彼。の。慚。愧。後。悔。志。を。改。く。

けり。う。こと。後。これ。舊。悪。を。外。ん。や。然。然。之。明。の。醉。醒。む。い。ち。ち。あ。逃。亡。せ。り。
 固。く。惜。不。足。ら。後。も。直。は。瀧。田。へ。道。の。り。と。定。包。は。先。ん。少。の。安。西。麻。呂。木。小。深。ト
 合。せ。し。時。日。と。様。さ。推。し。を。ま。る。べ。し。今。新。又。城。と。獲。て。二。三。百。の。士。卒。あ。り。た。
 半。に。降。参。志。つ。の。の。り。の。主。客。の。物。甲。し。あり。謀。合。期。せ。び。く。三。方。不。敵。と。受。多。行。を
 の。く。こ。こ。當。ら。ん。城。は。禪。志。死。大。事。は。あ。り。と。や。酷。六。既。又。ま。る。と。も。い。ま。遠。く
 へ。へ。氏。元。貞。初。二。隊。よ。り。と。疾。追。當。り。と。令。志。あ。へ。け。り。り。ぬ。と。心。の。志。
 ち。や。うち。出。ん。と。ま。る。折。く。金。碗。八。郎。孝。吉。ハ。何。如。へ。う。ま。ま。軍。兵。十。人。あ。り。と。あ。り。
 忽。然。と。又。り。来。つ。大。將。美。実。は。ま。り。け。り。け。の。御。死。彼。此。と。優。劣。ハ。い。つ。の。と。甘。茶。を
 この。城。の。案。内。と。く。あ。り。ぬ。され。ば。衆。軍。小。先。と。ま。る。二。の。城。戸。と。う。ち。毀。賊。將。茶。毛。酷
 六。と。生。拘。ん。と。く。あ。り。不。々。と。終。く。その。所。在。と。ま。る。と。願。は。城。の。西。北。五。一。條。の
 活。路。あり。前。面。の。檜。山。や。く。右。の。う。ら。樹。ま。あ。り。左。の。崖。高。く。下。ハ。千。尋。の。谷。川。に



大木

十四



金平八郎

芭内
孝吉
酷六を
撃つ

八代傳卷六

三十三

城中一の要害也。人々もさる秘所あり。色の内と名づけけり。彼奴はつゝり道
 つらんと推量りて、人々の利する軍兵を馳催し、岨を傳ひ蔓へたり。著捷渡り
 うらみ出り。前面を信とて、いかにせむ女房子とて、後を乗る。主後まへへ八九東
 南と投てきりぬあり。熟視して、酷六るり。這奴も、その神餘の老堂、これへ通
 左やと入り。主君のおぢえ、大くころり。その禄を、いそぐ身を肥し。眷属事等を
 養ひ、いそぐ。忠義のぬる死せしむ。逆賊は媚波ひ東條、在城にて飽す。く
 民を虐ぐる。天罰竟に追まき。落城のけし、及びて、跡をとめ、脱さんや。金磁八郎
 まつゝあり。いせ戻せと、いけく透間ゆる。追蒐れ、轎まとも、いせ不龍言く
 ま、蹴た轉、鞭を撲地と、うち墮せむ。女房子とて、い吐嗟と叫びて、千尋の谷へ
 滾落。楳は打石、石は碎き、骨も透け死にけり。妻も、眼前妻子の横死を救ふ
 まへり。神杖衝く、岸邊に立在する。信とて、いけり。脱れ、くくやむひ

けん主従七人、魚鱗小袖、追まき我を、わろ不躬方、ハ鶴翼、連て、鷲鳥の燕
 雀と、殿より、旋風の沙石、巻く。吐と、嘔く、突崩と、地方を、名不負ふ、節ぬえ、天を
 明るが、雲より、岨山、麓の、樹下、闇進む、由退り、一騎、打、互に、織り、と、ちる、い、
 鎧の袖を、潜脱く。先を、争ふ、躬方の、英氣、追足、馮る、雑兵、ホ、雪、時、柱、て、散
 散ら、まき、狐、追蒐、追、誥く、ゆり、る、生、拘り、い、竟、不、賊、將、妻、毛、と、髪、と、り、く、い、
 と、辞、せ、じ、く、演、説、し、て、件、の、俘、を、引、居、させ、酷、六、を、頸、り、共、は、実、檢、入、し、て、く、
 義、実、名、の、ま、噴、息、し、夫、兵、ハ、凶、器、あり、徳、衰、く、武、を、講、し、澤、足、と、され、威、ど、り、て
 制、ま、ご、己、と、成、り、ざる、の、城、を、攻、地、と、争、ふ、も、民、を、救、ん、る、と、い、こ、し、一、樂、と、く、
 人、と、殺、さ、ま、ご、さ、ら、定、包、は、後、小、りの、みる、悪、人、ま、あ、ぶ、く、い、或、ハ、一、旦、乃、害、成、
 ち、それ、或、ハ、時、と、勢、は、志、成、務、ま、り、の、十、ゆ、く、八、九、ろ、る、と、この、故、ハ、非、と、悔、く、
 躬、方、よ、わ、ら、め、と、い、ハ、ぢ、く、命、を、助、る、の、と、用、さ、る、と、ろ、る、た、め、の、と、何、麼、い、
 廿五 山崎堂藏

る。且、其妻も。後、率ハ生拘られ、彼身ハ却頭を要し、刺妻と子ハ石堰水とあり。共ニ皮肉碎け、死しりえ。この時と勢、志、死、録、さして、逆、後、の、え、ら、む。必、天、の、赦、さ、る、亮、悪、の、の、の、る、へ、し、う、や、悪、の、後、の、も、み、つ、う、う、悪、の、さ、へ、う、ん。勢、怯、め、と、魂、輸、し、金、碗、が、牽、り、と、來、世、傳、と、釋、放、さ、せ、凡、新、の、ま、の、ま、る、の、の、軍、功、の、ま、い、し、う、り、と、後、日、小、恩、賞、あ、ら、じ、と、正、首、小、仰、し、小、會、感、涙、と、禁、め、ら、れ、し、も、捨、つ、死、命、あ、り、せ、ば、な、ら、ぬ、う、り、この、君、後、さ、は、と、よ、と、慚、愧、後、悔、今、を、入、り、身、の、置、と、ろ、ろ、瓜、あ、ら、さ、り、ける。う、く、く、又、義、実、ハ、孝、吉、小、宣、小、や、う。酷、六、瀧、田、へ、逃、つ、つ、バ、定、包、火、急、よ、よ、せ、ま、ら、べ、し、と、名、バ、公、安、う、ら、ふ、り、小、孝、吉、が、け、の、働、死、し、胸、中、と、る、小、似、う、り。城、兵、散、落、せ、じ、と、い、ふ、と、も、翌、日、ひ、て、二、日、が、程、あ、ら、必、彼、此、へ、ま、え、ら、え、と、ろ、ろ、ハ、麻、呂、と、安、西、ハ、媚、て、定、包、を、佐、る、わ、ら、べ、し。先、よ、ま、れ、ハ、人、狐、制、し、後、ろ、と、ろ、ハ、制、ら、は、この、曠、昏、ふ、ら、ち、獲、く。通、霄、ま、り、く、

平、郡、小、入、り、ハ、敵、の、膽、を、冷、ま、ん、軟、初、度、の、合、戦、躬、方、小、利、あ、ら、ハ、麻、呂、安、西、ホ、ハ、皆、怕、く、後、ろ、頭、と、出、ま、さ、る、は、その、と、ろ、ろ、色、あ、れ、ハ、勸、賞、と、沙、汰、せ、ん、と、ろ、金、碗、八、郎、孝、吉、と、第、一、番、と、定、さ、せ、壯、園、縣、賜、多、れ、と、も、故、う、り、必、う、り、あ、ら、し、そ、固、辞、ひ、く、これ、を、受、む、第、二、番、ゆ、ハ、小、湊、ふ、く、東、條、を、取、ら、と、ヤ、ま、し、め、叟、と、も、三、八、を、召、出、し、く、その、名、氏、問、せ、ゆ、ひ、く、三、平、四、治、郎、仁、摠、と、答、へ、義、実、ゆ、め、う、ち、微、笑、ら、い、と、愛、さ、れ、名、え、う、三、平、と、ハ、山、下、麻、呂、安、西、の、三、雄、と、平、治、前、象、と、い、ふ、死、軟、四、治、ハ、四、郡、を、治、ん、祥、二、総、ハ、則、上、総、下、総、後、ろ、ろ、の、ま、む、ご、を、嘗、小、入、り、ん、軟、め、れ、ハ、その、名、氏、問、と、ら、合、し、く、お、の、く、二、四、十、二、个、村、お、今、又、二、増、倍、と、れ、ハ、二、十、六、所、の、長、と、は、と、御、教、書、を、賜、小、多、れ、ハ、皆、一、の、歳、と、唱、つ、飲、い、さ、ま、て、退、き、り、第、三、番、ハ、氏、元、貞、行、二、乃、餘、後、の、輩、ハ、録、さ、る、小、違、あ、ら、と、或、ハ、秩、禄、と、死、形、也、或、ハ、牽、出、物、と、賜、れ、ハ、お、の、く、

奔一舞舞の賞重し。罰輕し。死せるものも又小生活る物の栄え。江小還る
車輓の魚雪の中る常盤木君が齡ハさ。石の岨とる。竭せしる。
と今様を合奏す。毒以奥し。ねさる。殺害ハ法度を寛し。民と安極
軍令と正して士卒以勵。多ひ。招き。数百人。及びたり。
これハ過半と。置。杉倉氏元と。小城を守り。借。二百餘騎。以て。
孝吉と先陣とし。負。後陣とし。平郡へ進。茂。氏元ハこれと。練て。
初て。小。勢。寡。この城。二三百の士卒。あ。足る。と。頻。密。着
中。其。突。陣。を。ち。掉。否。この城。ハ。果。り。破。ら。れ。何
知。へ。還。る。合。戦。ハ。必。し。も。勢。の。多。少。よ。り。小。の。あ。り。我。ハ。利。あ。り。
二百騎。千騎。二千騎。小。の。あ。り。ね。べ。し。こ。う。う。い。ぬ。念。せ。ぬ。汝。ハ。城。を。も。ん。
る。の。べ。ら。る。そ。あ。れ。麻。呂。安。西。ホ。と。和。睦。せ。必。し。と。争。べ。く。と。比。瀧。田。乃

敵兵し。せ。ま。ら。バ。カ。と。竭。し。防。戰。へ。あ。り。追。へ。く。追。へ。く。これ。安。全。乃
良。策。へ。努。め。懈。る。べ。く。と。叮。嚀。又。説。諭。し。先。陣。と。い。そ。が。一。と。懸。く。出。陣
老。の。ひ。り。果。せ。る。里。見。の。一。軍。その。夜。前。原。浦。と。潰。救。る。堰。橋。を
渡。り。美。実。の。徳。武。幕。の。風。を。望。し。帰。降。する。野。武。士。郷。士。と。百。騎。二。百
騎。ち。つ。追。著。む。追。著。む。軍。勢。千。騎。な。り。後。に。や。う。く。も
この。橋。千。騎。橋。と。唱。え。加。旃。の。処。ハ。源。頼。朝。卿。當。面。へ。推。渡。り。
上。総。へ。赴。死。め。と。た。河。の。後。と。り。中。後。陣。と。移。せ。し。と。待。時。と。す。め。る。
側。白。旗。の。神。祠。あり。美。実。則。馬。より。り。征。前。二。條。を。奉。納。し。且。く。祈。念
老。の。ひ。真。夜。中。の。白。旗。二。隻。社。の。松。の。梢。より。そ。と。斬。着。し。平。郡
の。く。入。飛。去。ぬ。と。成。る。諸。軍。兵。合。戦。勝。利。疑。は。し。と。勇。さ。る。の。る。け。り
南。徳。里。見。八。犬。神。卷。之。一。終

北七

